

世界遺産へ向けて

郡上市白山文化フォーラム 12月5日(日)に開催予定 ー白山文化と盆踊りー



勝山市とともに
に霊峰白山と山
麓の歴史遺産の
世界遺産登録推
進を目指す岐阜
県郡上市では、
下記の日時で白
山文化フォーラ
ムを開催します。
今回は、「白山文
化と盆踊り」と
題して東京文化
財研究所名誉研

究員の星野紘氏のご講演をいただくとの
ことです。また、講演会終了後、「白鳥の
拝殿踊り」や「石徹白の盆踊り」が上演
されます。この機会にぜひ参加してみ
てはいかがでしょうか。

- 日時：平成22年12月5日(日)
午後1時30分～4時30分
- 場所：岐阜県郡上市総合文化センター
文化ホール(郡上市役所隣)

ほっぷとく

平泉寺こぼれ話 ～第23話～

平泉寺からの出土品です。
これは何でしょうか？



ヒント

- ①. 金属でできている。
- ②. 厚さ1cm未満の薄い板状である。
- ③. 穴の空いた銅製の金具がセットになっている。
- ④. 平泉寺集落内の地中から出土。
- ⑤. 中世の平泉寺に八千人いたとされる人々が身につけたものか。

答えは最下段↓

越前禅定道探訪記 その8

早内森鉦山跡

祓川の滝から、滝波川に沿って林道小原線
を登ると早内森平(和佐盛平)と呼ばれる平
坦地に至る。平坦地の手前、金山谷と横谷の
間の斜面上に鉦山跡はある。斜面の中腹を切
り崩した100m四方の場所には、石垣で囲ま
れた建物跡や田畑の跡、坑道跡が確認できる。

早内森銀山は、江戸時代の寛文年間(1661
～1672)から採掘され始め、最盛期には90



早内森平

戸の家が建ち並
んだという。ま
た『平泉寺文書』
には、銀山ができて禅定道沿い
の古木を切り倒し畑にした事
に対する小原村から平泉寺への詫
び状が掲載されている。



坑道跡



早内森の鉦山跡

答え ヨロイの破片

(4)

国史跡平泉寺の整備情報誌

平泉寺かわら版

No. 26 (2010年11月号)

【発行】 勝山市教育委員会 史蹟整備課

【発行日】 平成22年11月25日

【ご意見・ご要望は下記まで】

電話: 0779-88-8113(直通)

メール: shiseki@city.katsuyama.lg.jp



白山文化フォーラムの様子



史跡見学会の様子

今号の内容

特集：
白山文化フォーラム2010

連載：
★世界遺産へ向けて
★平泉寺こぼれ話 第23話
★禅定道探訪記 その8

(1)

白山信仰は大陸の白頭山の影響を受けた？



泰澄について話される本郷先生

まさつぐ 真紹先生に「『泰澄和尚伝記』の世界」と題してご講演をいただきました。

先生は泰澄大師研究の第一人者で、『泰澄和尚伝記』の記述から読みとることができる北陸地域の宗教文化の特性や神仏混淆の実態についてお話しされました。泰澄伝記を書いた人物については、「独自の史料に基づき、北陸独自の宗教文化に精通した人物である。フィクションとして片づけるのは問題であり、多角的に分析する必要がある」とし、「北陸地域は、新しい文化が直接大陸から入ってくる地域であり、全国に先駆けて越前ではいち早く神宮寺が建てられた。古代において日本海沿岸地域こそが表日本であった」とも話されました。

また、感想として、「白山信仰は中国・北朝鮮の国境にそびえる白頭山の信仰に結びつくのではないか。白頭山は朝鮮民族、漢民族発祥の地で信仰の対象となっている。朝鮮半島の中で仏教をいち早く取り入れたのは高句麗である。白山の神は菊理媛と呼ばれるが、これは高句麗姫がなまったものともいえ、高句麗からやってきた神の可能性があると指摘されました。

関連行事 史跡見学会と平泉寺発掘成果展

白山文化フォーラムの当日、午前10時から、平泉寺の発掘現場において史跡見学会が行われました。勝山市が進めている発掘調査現場と周辺の遺跡を約90名が見学しました。



史跡見学会風景

また、白山文化フォーラムの会場手前のロビーには、「白山平泉寺発掘成果展」と題した展示スペースを設置しました。

フォーラムを訪れた多くの方々に最新の発掘成果に触れていただきました。



発掘成果展風景



パネルディスカッション

仏教伝来以前の白山の信仰、神仏混淆、浄土真宗との関係
北陸地域は、大陸の文化がいち早く導入された先進地！



【概要】

本郷先生の講演会の後、パネルディスカッションが行われました。コーディネイターは 笠松雅弘氏（福井県立こども歴史文化館館長）、パネラーは講演をいただいた本郷真紹先生、松山和彦氏（財・石川県埋蔵文化財センター）、本川幹男氏（勝山市史編さん委員長）の3名です。以下、主な発言内容をまとめました。

【本郷先生】

仏教が日本に伝来し、日本の神々と融合した理由は？

日本の神々は自然崇拝から発展しているため、怒りを鎮める必要のある恐ろしい対象として存在した。一方、仏教は死者に対する供養や病を治してくれる対象として存在しており、広く人々に受け入れられやすかったのではないかと。

日本の神々は地域が限定しており、もともと教義もなかった。為政者は、国を治める上で教義の整備された仏教の存在を必要としたのではないかと。

【松山氏】

加賀の山林寺院の状況について報告

8世紀後半頃には、加賀地方で山林寺院が確認されている。越前においても越前五山といわれる越知山や文殊山、日野山などを中心に山林寺院が成立したのではないかと。

【本川氏】

白山信仰地域に浄土真宗が受け入れられた理由は？

信仰上対立したのではなく、政治や生活上で対立したといえる。白山(大汝峰)の阿弥陀信仰から浄土真宗の入っていける道筋があったのではないかと。

【会場からの質問】 泰澄大師は実在したのか？

本郷先生は、「現状では真偽の程は確かめられない。泰澄大師のような人物は複数いたのかもしれない。そういった人物が、泰澄といった象徴的な存在として伝記にまとめられたのではないかと」話されました。

また、先生は、「中央の政府が仏教を導入する以前から、北陸地域には仏教的な要素が大陸から伝わっていた可能性がある。特に越前は大陸の新しい技術や文化が入りこむ先進地ではなかったか」とお話しされました。フォーラムに参加した方は、「越前は先進地だったという話をお聞きし、大変勇気づけられた」と感想を話されていました。



コーディネイター 笠松雅弘氏



パネラー 本郷先生



パネラー 松山和彦氏



パネラー 本川幹男氏